



青学大会新V



復路独走 駒大の連覇阻む

大会新記録で総合優勝し、ゴールする青学大・宇田川瞬矢選手（3日、東京・大手町の読売新聞社前で）＝加藤学撮影

第100回東京箱根間往復大学駅伝競走（関東学生陸上競技連盟主催、読売新聞社共催）は3日、神奈川県箱根町の芦ノ湖駐車場で、前までの5区間109キロの復路大会が行われた。往路優勝の青山学院大が一度もトップを譲らず、10時間41分25秒の大会新記録で、ぶり7度目の総合優勝を飾った。大が過去最高の3位に入った。青山学院大は6区の野村昭夢（3年）が区間2位の好走で、2位駒大との差を往路終了時の2分38秒から4分17秒へ拡大。8区塩出翔太（2年）、9区倉本玄太（4年）が連続区間賞を獲得して突き放し、勝負を決めた。

復路での逆転を目指した駒沢大は、6区で区間12位と出遅れると、その後も全ての区間で青山学院大を上回ることができず、史上初となる2季連続の大学駅伝3冠はならなかった。

過去最高順位が6位だった城西大は、復路も堅実なタスキリレーを続け、往路の3位を死守した。

4位は東洋大、5位国学院大、6位法政大、7位早稲田大、8位創価大、9位帝京大、10位大東文化大で、以上のチームが次回のシード権を獲得した。

第100回記念大会の今回は、例年より3チーム多い23校で行われた。

（記録は速報値）





小田原中継所でタスキリレーする6区の駒大・帰山侑大選手（左）と7区の安原太陽選手（3日、神奈川県小田原市で）＝佐々木紀明撮影



平塚中継所で7区の青学大・山内健登選手（右）からタスキを受け、8区の塩出翔太選手（3日、神奈川県平塚市で）＝桐山弘太撮影



復路を一斉スタートする往路8位以下の16チームの選手たち（3日、神奈川県箱根町で）＝永井秀典撮影



小田原中継所でタスキをつなぐ城西大6区の久保出雄太選手（左）と7区の林晃輝選手（3日、神奈川県小田原市で）＝佐々木紀明撮影

箱根駅伝の熱戦の結果や記録は読売新聞オンラインで



その、試合に熱くなり、その、結果に涙し、
その、記録に心が震え、その、記事に勇気をもらった。
スポーツがあるから、この星は面白いんだ。

読売新聞は、スポーツを伝え、支えて、150年



スポーツ報道に、熱。
スポーツ振興に、愛。
読売新聞

